

## 祝 詞

通商産業大臣 安倍晋太郎



このたび社団法人高分子学会が設立 30 周年を迎えられるに当たり、一言お祝いの言葉を申し上げます。

わが国高分子工業は、各種プラスチック、合成繊維などの生産によって国民生活の向上に寄与する一方、光ファイバー、選択性透過膜など特殊な用途に用いられる高分子製品の分野において欧米先進国の品質を凌駕するものを創りだすなど、わが国の経済発展の一翼を担ってまいりました。

この間、貴学会は講演会などを通じて内外の研究業績を紹介するとともに研究発表会などを主催して研究水準の向上に努められ、わが国の高分子工業技術を世界の最高水準にまで引き上げることに貢献してこられました。このような高分子学会関係各位の

御尽力は高く評価されるべきものと存じます。

しかしながら、目覚しい進歩を遂げた高分子工業のうち、石油化学の分野においては、二度にわたる石油危機を契機とする原料価格の高騰、需要の低迷などによって業況が悪化し、抜本的対応策が必要となっております。

このような状況に対応するために、技術開発面においては、 $C_1$  化学、重質油からのオレフィン製造など原料の多様化を図るとともに、積極的な自主技術開発により高付加価値の製品を生産し、新たな需要を開拓することが喫緊の課題となっております。

通商産業省におきましても、基盤技術の重要性にかんがみ、昭和 56 年度に「次世代産業基盤技術研究開発制度」を新たに設け、産業界、学界および国の緊密な研究協力の下に 90 年代に開花する産業の基盤となる技術の開発に着手しております。この制度におきましても、前述のような高分子工業が日本経済の中で果たす役割の重要性に配慮して、高効率高分子分離膜、導電性高分子材料など、高次の機能を有する高分子材料の研究開発を推進することといたしております。

このように、高分子工業の分野で高度の技術開発が必要な時期にあっては、高分子を専門に扱う唯一の学術団体である貴学会が産業界および国との連携の下に高分子研究の振興に果たす役割は誠に重要なものと申せましょう。

この観点から、このたび貴学会が「基礎科学の振興と産学官研究協力機構への寄与」を柱の一つとして記念事業を行なわれることは誠に時宜にかなったものと存じます。

最後に、貴学会設立 30 周年を機に高分子学会関係各位がその役割の大なることを再認識され、今後とも着実に地歩を固め、所期の目的を達成されますことを祈念いたしまして、私の祝詞といたします。